



高法會議筆記

七年九月十八日

1631



114  
A2765

佛國商法講義第一卷



佛國ニテ未タ此ノ商法ヲ立テサル時ノ景況  
ヲ説カレ

何トナレハ以前ノ法ハ此商法ニ入ラサルモ  
ノアルヲ以テナリ

此ノ商法ノ立タサル前千六百七十三年ニ陸



大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

ノ商法出来タリ千六百八十一年ニ海ノ商法  
出来タリ之レ十四代「ルイス」ノ命令ナリ  
石海陸商法此商法ニ反スルモノハ刑リ去リ  
適スルモノハ猶ホ此商法中ニ存シタリ  
十四代「ルイス」ノ命令ニテ行ハレタル「コンシ  
ユル」ノ法ハ今猶ホ行ハレタリ  
商法ハ此ノ外ニモ「アレ氏」先ツ此商法中ニ就  
テ説カシ  
此ノ商法ハ歐洲ハ勿論米ニテモ行ハル故ニ  
此法ヲ知レハ全世界ノ法ヲ知ルト同シ

民事上ニテハ平人モ商人モ一般ナルユヘ民  
法ニ於テハ一般ニ取扱フト雖氏商業上ノ一  
ニ付テハ此ノ商法ヲ以テ取扱フナリ故ニ商  
人タリトモ商事ニ關セサル分ハ民法ヲ引用  
セサルヲ得ス  
商法ハ民法ノ増補ノ如キモノナリ民法ニ十  
キ「ハ」此商法ヲ以テ取扱フ故ニ民法ニアル  
「ハ」商法ニハ載セス  
第一賣買ノ「ハ」商法ナレ氏既ニ民法ニアル  
ユヘ此法ニ載セス

商法中ノ一條ニ商買ニ關スルハ民法ト賣  
買ノ卷ヲ見合スヘキコトヲ書イテアリ就テ見  
ルヘシ

民法ハ人民一般ノ法律ナリ商法ハ商人ノミ  
ニ用フル特別ノ法律ナリ

何ノ為メニ特別ノ法律ヲ立テタルトナレハ  
元來見留ムル所アリテ此コトヲ善クセシトス  
ル為メナリ

第一ハ事ヲ多ク為ス

第二ハ事ヲ早ク為ス

第三ハ事ヲ慥カニ為ス

此三件ノ目的ヲ遂クルタメニ立テタルモノ  
ナリ

商法ノ規則ハ澤山アレモソノ目的ハ此三々  
条ニ外ナラス

先ツ事ヲ多ク為スコトヲ説カントス

第一ノ目的事ヲ多ク為スニハ現金多カラサ  
レハ能ハス

然レモ商ヲ為スモノ其目的大ケノ現金ヲ必  
ラス所持スルモノニアラス仍テ金ニ換エル

モノヲ作ラサルヘカラス

始終現金ヲ遣り取りシテハ金足ラス故ニ商

人ニテハ賣買ノ間ニ互ヒニ信用ナカルヘカ

ラス

其信用ヲ佛ニテ「クレシ」ト云フ相互ヒニ信

用スルナリ

此信用ト云フハ民事ニモアリタリハ金

ヲ借スニハ抵當アレハ安心シテ借スカ如キ

之レナリ

商事ノ信用ハ又一層強シ何トナレハ互ヒニ

抵當ナレニ賣買ノ約束ヲナセハナリ

即チソノ人ノ心ヲ信用スルナリソノ信用ハ

金ノ代リニナルナリ

商事ノ信用ハ民事ノ信用ヨリ一層強ナト云

フ氏只ク信用ノ強キヲ能ハス

故ニソノ信用ヲ強カラシムル為メニ法ヲ立

テタリ

ソノ第一ソノ信心ヲ衆人ニ與フル法ハ即チ

出入帳ナリ

ソノ出入帳ハ商法裁判所ノ長官ヨリ一葉コ

トニ番号ヲ付ケ押印ヲサシ  
ニナシ置ク  
抜差ナラサル様

之レヲ自カラ  
ニハナラス  
抜差スルコニテハ衆人ノ信用

故ニ商ヲナスモノハ必ラス我カ為ス  
コソノ帳ニ記載セサルヘカラス  
我カ為スコトヲ一

方一ノコアレハ其帳ヲ裁判所ヘ出シテ證據  
トナスナリ

ソノ第二ハ社ヲ組ムハ所要ナリ  
人ニテ出金シテ商ヲナシテ利ヲ分チ又ハ社

ニ入ラストモ元金ヲ出シテソノ利ヲ分カス  
等之レナリ

ソノ第三ハ為替手形ナリ  
ヲトヘハ長崎ノ人ニ東京ヨリ金ヲ送ルニ正

金ヲ以テセスレテ手形ヲ以テス之レナリ  
ソノ第四ハ家資分産ナリ

之レモ信用ヲ増ス為メノ法ナリ何トナレハ  
金ヲ借シタルモノ數人ニテ之レヲ分ケテ取

ルトキハ必ラス偏頗ナク取り戻スヲ得ルノ  
理アレハナリ

以上事ヲ多ク為ストニ説キタリ  
以下事ヲ早ク為ストヲ説カントス

第二ノ目的事ヲ早ク為スハ事ヲ多ク為スト  
ヨリモ肝要ナリタトハコ、ニ的用品物  
アリ歐洲ヨリ取寄ルニ早ケレハ其價モ高ク  
シテ利アリ遲ケレハ機會ニ後レ其價下落シ  
テ利アラス故ニ早キ方肝要ナリ  
ソノ第一早ク為スニハ條約ヲ早クセサルハ  
カラス

民事ニテハ甚タ遲シ二人ニテ為ストキハ二  
人面ヲ合セ證書正副二通ヲ書キ雙方印ヲ押  
ス等ノ手數アリ或ハ公證人面前マテモ出ツ  
ルノ等アリ

商事ハ否ラス書翰一封ヲ以テ約束スレニテ  
足レリトス 即チ條約ノ成ルモノナリ  
元ヨリ相互信用シ居ルユヘナリ  
ソノ第二ニハ金銀貸借上ニ付テハ又甚ク早  
キヲアリ  
ソノ金ノ借り替ヘナリ  
タトハ甲ヨリ乙へ返ス金アリ又乙ヨリ丙

ニ返ス金アリ元来甲ト丙トハ關係ナシト雖  
モソノ時甲ヨリ丙ヘソノ金ヲ返シ又丙ヨリ  
乙ヘ返シテ濟ム如キ為替ノ法ナリ  
民事ナレハ甲ヨリ先ツ乙ヘ返シ乙ハ丙ヘ返  
サ、ルヘカラスソレニテハ遅キユヘ右ノ如  
キ簡便ノ法アリ

之レハ商法ノ内為替ノ條ニ明瞭ナリ  
ソノ第三ニハ （ブールス  
相場會社）

相場會社アリ是レ亦タ事ヲ早クスルノ目的  
ナリ之レ政府ヨリ設立スル一箇ノ官衙ニシ

テ即チ商人ノ集會スル所ナリ

何トナレハ相場ニ付商人相互ヒニ往來シテ  
ハ時間ヲ費ヤスト甚タ多シ

ソノ會社ニハ商人集會シアルヲ以テ謹レニ  
テモ行キテ其相場ヲ知り其賣買ヲナスヘキ  
ナリ

ソノ第四ニハ商買ノ代人ナリ （コミッションヨナル  
委員）

民法ノ代人トハ違フ民法ニテハ代リヲ為ス  
マテニテ本人ニハ始終關係アルナリ

商法ハ然ラス



タトヘハ代人田舎へ行キ物ヲ買フ等ニ付テ  
ソノ田舎人本人ヲ知ラストモ代人ノ顔ニ對  
シテ賣買ヲナス  
ソノ代り本人ノ金不足ナルトキハ代人ニテ  
之レヲ拂フ

タトヒ代人何事アリトモ本人ニハ係ハリナ  
シ  
之レ賣買ヲ早クスルモノニテ民法ノ代人ト  
違フ所口ナリ  
此商買代人ノ弁利ナルコト左ノ如シ

タトヘハ日本ノ司法省ニテ佛ヨリ法律書ヲ  
買フニソノ代人商人ニアラスニテ往イテ司  
法省ノ買物ナリト云フトモ金ヲ未タ拂ハサ  
ズ内ハ危フミテ渡スコトナシト雖モソノ時商  
人ノ代人ナルトキハ必ラス書肆ニテソノ本  
ヲ渡スナリ  
ソノ第五ニハ證據ヲ立ツルコト  
民法ニテハ三十ドル以上ハ人ノ證據ナカル  
ヘカラス  
商法ニテハ百万ドルニテモ人ノ證據ヲ立ル

ニ及ハス裁判官ニ於テ書翰ニテモ帳面ニテ  
モ證ニナルヘシト思量スルモノアレハ足レ  
リトス

商法ニテハ我カ記載セル出入帳ニテ是レリ  
方一ソノ帳ノ偽造ナルトキハ勿論ソノ罪ア

以上ハ事ヲ早クスルヲ説キタリ

以下ハ事ヲ慥カニ為スヲ説カントス

ソノ第一ニ第三ノ目的事ヲ慥カニ為スニハ  
相場會社ハ政府ヨリ命セラレタル官負二種

アルナリ

一ハ「クールチエ」品物ノ相場ヲ調ヘテ世話

ヲナスモノ

一ハ「アシヤンドシヤンシ」金札等ヲ預カリ

居ルモノ

右ハイツレモ賣買ヲナス即チ賣買スル

モノ、代人トナルモノナリ

ソノ第二ノ事ヲ慥カニ為スモノヲ

「アツシユラシス」ト云フ即チ海上請合ナ  
リ

商法ノ「プレスクリプション」ハ五年ナリ  
民法ノ「プレスクリプション」ハ三十年迄ナリ  
是迄説ク所ハ商法ノ大綱ヲ舉ケタリ以下  
商法ノ本文ヲ説カントス

問「ルイス」ノ旧法ノ此法律中ニ編入セサル  
モノハ別ニ一書ヲ成シテ現今行ハレ居ル

ヤ  
此法律中ニ存セスシテ今ニ行ハレタルモ  
ノアリ之レハ此書ヲ編成セシモノ除キタ  
リヤ又ハ遺忘セシヤハ知ラサルナリ

即チ前ニ云ヒタル如ク「コンシユル」ノ取扱  
フ海上商法ハ今ニ行ハルレ此法律ニハ  
記載セス

此法律アリテヨリ後ハルイスノ法ハ用ヒ  
サルナリ

○尤<sup>ナシ</sup>  
然ラハ不足ナリト思フモ左モナレ此ソノ  
不足ナル所ハ總テ民法ニアリテ民法ヲ  
以テ之レヲ治ム

商法第一

第一編

第一條

凡ソ商賣ノ業ヲ行ヒ之ヲ以テ平常己  
レノ職分ト為ス者ハ商人ナリトス

商法ハ商人ノ法ナル故ニ商人トハ何等ノ人  
ヲ指シテ云フヤ即チ商賣ノ事ヲ以テ通常其  
業トナスモノヲ云フ故ニ酒一盃賣ルモノモ  
大ナル呉服店モ皆チ一切商人ナリ  
之レヲ分割シテ論スルトキハ  
第一商事ヲナス

第二平上之レヲナス

間断アツテナスモノニハアラス

第三之レヲ職業トス

右ノ三ツノモノヲ兼有スルヲ商人ト云フ一  
ツヲ欠クモ商人ト云フヲ得ス

何レノ一ヲ商事ヲナスト云ハ民法第六百  
三十一條以下ヲ見合スヘシ

民法第六百三十一條ニ商法ノ事ト書テアレ  
トモ右ニテハ十分ナラス

第一

商事ノ性質ヲ説カントス

アクトコンメルス

第一ノ商事ノ性質

双方有利ノ條約ヲ云フ一方ノ利益ノミニテハ物ヲ只夕人ニヤルカ如キハ商事ニハアラサルナリ

第二ノ商事ノ性質

佛ニテハ不動産賣買ハ商事ニ入ラス只相場ヲ立ツヘキ動産ヲ賣買スルヲ商事ナリトス

第三ノ商事ノ性質

物ヲ賣買スル間ニ於テ利ヲ得ルハ商事ノ肝

要ナリ

又物ヲ買ヒソノ性質ヲ變セシメテ利ヲ得テ賣ルコトナリ

ソノ物ヲ買ヒテ我カ需用トナスコトハ此内ニ入ラス

タトヘハ葡萄酒ヲ買ヒ樽ニ入レ一年程貯ヘ置キソノ酒ノ質ノ美ニナルヲ待ツテ之レヲ高ク賣ル之レ商事ナリ然ルニソノ樽ヲモ賣ル之レハ商事ニナラス何トナレハ此樽ハ元ト賣ル為メニ買フニアテサルナリ故ニ其品

ヲ買フテ賣ルニアラサレハ商事ニアラス  
又葡萄酒ヲ庭ニ作り酒ヲ製シテ賣ルハ農事ナ  
リ商事ニアラス

又画師ニテ鱻ヲ買ヒ之レニ画ヲ画キテ賣ラ  
ント云フニ之レハ商事ニアラス何トナレハ  
ソノ鱻ヲ善クシテ賣ルニアラスソノ画ニ價  
アレハナリ

故以上三ツノ性質アラサレハ商事ニアラス  
第二ソノ商事ヲ業トシテ平生間断ナク行フ  
モノハ商人ナリ

間断アリテ商事ヲ為ス人アリソノ事ニ付キ  
訴訟起ルハ商法裁判所ニ呼出サル

之レハ商人ノ規則ナクトモヨロシ常人ノ商  
事ニ付イテ商法裁判所ニ呼出タルト同  
レトナリ

此商法ノ第一條ヲ作ルトキ「トリエテ」ノ字  
ヲ入レント思ヒシカ其承知ノ限界立チ難ク  
議論アリテヤメタリ

第三之レヲ業トシ為サルヲ得ス  
業トスルト業トセサルハ知リヤスキトナリ

夕トヘハ農ヲ為シ米ヲ賣ルニ為替手形ニテ  
金ヲ受取リ夕リトモ高事トハ云フヘカラス  
為替手形ハ高事ナレモ金ノ都合ニヨリテ受  
取タルモノニテ即チ農事中ニ高事ノ入り夕  
ルモノトス故ニ商業トハ云フヘカラス  
金貸ヲ渡世トナスモノ為替手形ヲ賣買スル  
モノハ即チ高事ヲ業トスルモノナリ  
之レヲ業トスルニ間断ナク之レヲ為スト間  
断アリテ之レヲ為ストノ間ニ於テ不審ヲ起  
スヘキモノアリ

夕トヘハ開店ノミヲ為シテ未夕仕入ノ荷物  
着セス又ハ買人ノナキ間ニ分散トナリタル  
片ハ商人トナスヲ得可キヤト云フニ  
之レハ元來商業ノ目的ニテ事ヲ起シタルニ  
一時分散ニナリタルモノニテソノ人ノ一心  
ハ既ニ高事ヲ以テ業トナサント思ヒタルニ  
テソノ人ノ商人ナルコト分明ナリ  
一人ハ商人一人ハ常人ニテ賣買ヲ為シタル  
ヨリ訴ヲ為ストキハ之レハ何レノ裁判所ニ  
テ受理スヘキヤ

既ニ商法裁判所へ出ラケル上ハ商法裁判所  
ニテ之ヲ受理スルト雖モソノ受理ノ以前  
ニ民法裁判所ト商議シテ至當ノ裁判所へ呼  
出ス

ソノ一方ニテ常人ノ証ヲ立ツルトキハ民法  
ノ証ヲ以テスルヤ又ハ商法ノ証ヲ以テスル  
ヤ

ソノ常人ハ商法ノ証ハナキユヘ民法ノ証ヲ  
立ツヘキナリ商人ハ商法ノ証ヲ立ツヘキナ  
リ

以上如何ナルモノ商人ナリト云フコトヲ説キ  
タリ



第二

商法會議筆記

七年九月二十二日

七年九月二十二日

商人ト商人ニアラサルト區別スルハ何ノ為  
ナリヤヲ説カントス

商法ト民法ト區別セサルベカラス商人ハ商  
法裁判所ノ支配平人ハ民法裁判所ノ支配ナ  
ルニ付キ區別セサルヘカラス何トナレハ商  
人ハ平人ノ權ノ外ニ別段ナル權ヲ有ス  
ナリ

商人ハ出入帳ヲ持タサルヲ得ス又商人ハ分  
散トナラサルヲ得ス

此ニツ、獨リ商人ノミニ用ヒラル、ナリ  
商人ノ婚姻スルトキハソノ婚姻條約布告  
セサルヘカラス

ソノ財産ハ共通カ不共通カ各別カ又ハ  
財産ヲ夫ニテ支配スルカヲ布告セサルヘカ  
ラス

平人ニ於テハ夫婦ノ間ノ條約ノミニテ足レ  
リ布告スルニ及ハス

ソノ婚姻條約ニ種々ノ類アリ共通アリ不共  
通アリ他人ニテハソノ財産云々ヲ目的トナ

シテ交接スルユヘナリ

布告トハ裁判所へ貼出スルナリ

之レヲナスハ商人ノ義務ナリ平人ノ持タズ

シテ商人ノ持ツ權トハ商法裁判所ノ裁判官

ハ政府ヨリ命スルモノニアラス

商人集マリテ商人中ヨリ人撰スルナリ之レ

商人ノ權ナリ

商人ノ集マリテソノ中ヨリ人撰スルハ格別

ナルイナリ何トナレハ商法裁判所ハ別人ノ

入ラナド所ニシテ一般ノ法律ニテ決シ難ク

商事ノ慣習ニヨリ決スルコトアリ又數又ハ量  
ノトナドハ一般ノ裁判官ノ知リ難キコトアル  
ユヘナシ

商法コード中ニ記載セサルコトヲ取扱ハ  
地ノ景況ニヨリ相違多シ右ヨソノ地ノ景況  
ニヨリテ決スルハ即チ法律「コード」ノ旨意ナ  
リ

相違アルトハタトヘハ通常十品ニテ何程ト  
價ヲ定メタリトモ一ツヲ益シテ十一ヲ賣ル  
等ノ処コアリ之レ等ハ法律書中ニハ記載シ

難キナリ

タトヘハ横濱ニテハ絹ヲ賣ルニ紙ニ包ムナ  
リソレヲ澤山集ムレハソノ包紙ノ量澤山ト  
ナル然レトモソノ紙ノ量ハ即チ絹トナルト  
云フニハアラス之レ風習ノ然ラシムル處ナ  
リ右等ノ如キハ知ラサルモノハ裁判スルコ  
能ハス

法律上ニ於テ商人ノ一身中二人アリト見做サ  
ルヲ得ス商事ヲナスニハ商人ナリ民事ヲナス  
ニハ平人ナリタトヘハ商人二人ニテ不動産ヲ賣買シ

又ハ婚姻ヲ為シ又ハ養子ヲナス等民事ヲ為ス  
トキハ即チ平人ナリ

商人ヲ二人ト見做スト雖モソノ之レヲ為スニ商事  
歟民事歟ノ疑ヲ起シテ決シカタクコアリソノ  
時ハソノ身分商人ナルニ付キ商事ト定ム可シ

### 第一

商人ノ出入帳ハ商事ヲ記スベキモノナリト雖モ  
民事ニ付キタルコトヲモ財産ノ贈遺又ハ諸器  
物ヲ買フコト付キ借リタル金等總テ日々ノ出  
入ヲ記入スルナリ

### 第二

分散ノトキ商事ノ金ト民事ノ金ト區別ハ立  
テス總テ平等ニ配分ヲナスナリ  
一例ヲ舉ケン

商人ノ分散トナリタルトキ遺物相續ヲ受ル  
場合ニ於テソノ金高ヲ出入帳ニ記載ス之レ  
則チ民事商事相混スル所口ナリ  
タトハ一人アリ商事ニ付テ五方圓ノ借賤  
アリソノトキ遺物相續ヲ受クルニ付キ二方圓ノ入  
金アリ之レ民事ナリソノ人獵ニ行キ人ヲ疵

ツケニ万圓ノ償金ヲ出スベキトナル之レ  
モ民事ナリ然ルニ民事ニ付テノ金ハ民事ニ出  
セト云フハソノ相續ノ二万圓ハ民事ノ償  
金トナルユヘ商人ヘ返スヘキ五万圓金ハ商事  
ノ方ニ出シソノ配分スヘキ金ハ一文モナレ  
此ノ如ク不公平ノ配分トナルユヘ民事商事ヲ  
區別セサルヲ記載スル所以ナリ

商人ニハ如何ナル人ノ之レニ爲ラルヲ説カン  
トス商業ハ性法ニ出ヅルモノニテ銘々ノハ自  
由ナリトスト云フハ本別ナリ人生レテ物ヲ  
買賣シテソノ

○ヲ款

間ノ利ヲ得ルハ自然ノ道理ナリ故ニ何レノ國  
何レノ人ニテモ之レヲ爲シ得可シ

以前ノ法ハ死人即チ準死ノ刑ヲ  
受ケタルモノニテモ之レ  
モ爲シテ宜トス

然ルニ各國取締ノ法ニヨリ誰カ之レヲ爲ス  
可キ誰レカ之レヲ爲ス可カラサルノ法ヲ生ス  
故ニ事柄ニヨリ又ハ人柄ニヨリテ規則ヲ政  
府ヨリ立ツ  
事柄ニ付テハ

無名會社ナルモノアリ之レヲ結ハントスルトキ  
ハ私シニ立ツルイヲ得スソノ規則ヲ政府ヨリ

之ヲ許サバレハ爲ス<sup>1</sup>ヲ得ス

銀行ヲ設クルトキハ之レヲ政府ヨリ立ツ之レ

ハ諸方ヨリ集金スルユヘ正シキ入ヲ以テセサルヘ

カラザレハナリ

トントン 數人集マリテ毎年金ヲ出シ長ク生キタルモノソノ金ヲ取ル會社ナリナルモノ

アリ今ハ無之之レモ政府ヨリ許サバレハ爲ス<sup>1</sup>ヲ

得ス

千人會モ政府ノ許可ナクシテハ爲ス<sup>1</sup>ヲ得ス

書肆又ハ活版屋ハ政府ノ許可ヲ受ケサルベカ

ラス 之レハ政府ヨリ着目セサルハカラサルユヘナリ

事柄ニ付テ云フモノハ以上ノ如キ之レナリ

人柄ニ付テ云フモノハ

### 第一

「アジヤントシヤンシユ」ハ商事中ノ世話人ナルユヘ私慾

ヲナスヲ恐ル、爲メ之レ等ハ商事ヲナス<sup>1</sup>ヲ

禁セラル、ナリ 之レハ政府ノ官員ナリ

### 第二ニハ

「アホカ」之レハ官員  
代理人ニハアラズ

ソノ他代書人公証人使吏等裁判所ニ關スル

モノハ商事ヲ爲ス<sup>1</sup>ヲ得ス

以上ハ法律上ニ於テ之レヲ禁ス

ソノ他地方官等ハ法律上ニ於テ商事ヲ禁セ  
スト虽此之レヲ爲ストキハ必ラス免職トナ  
ル

以上ノ商事ヲナスコトヲ得スト云フハ爲スト

能ハナルニハアラサルナリ

之レヲ禁スルナリ

此外ニ禁セスシテ自カラ爲スト能ハサルモ  
ノアリ

一 幼童ノ如キ商事ヲナスニ之レハ商事ニハナ

ラスト裁判ス

官員中ニ於テ商事ヲナスニ之レヲ禁スルモ  
ノナルニハ免職トハナルト虽此ノノ商事ニ  
ハ効アリトス

幼童ノ爲ス商事ハ其効ナレトス

不能ノモノニテ商事ヲナスコト能ハサルモノ

トス商事ハ約定ヲ始メ爲ス所口皆効ナレ

ソノ不能カノモノトハ幼年ノモノト既ニ婚

セシ婦トノニツナリ

ソノニツノモノ、商事ヲ爲スト能ハサル



ハ各別ノ理アリ

幼年ノモノハ知覺足ラス才能ナレ故ニ能ハ  
ス

既ニ婚セシ婦ハ知覺才能ナレト云ニハアラ  
ス婦ハ夫ノ命令ニ從フモノナルユヘ之レヲ  
自ラ爲スヲ得ガルナリ

官員ヨリ平民ニカ、ル負債ハ取ルイヲ得サ  
ル氏平民ヨリ官員ニカ、ル負債ハ取ルイヲ  
得ヘキト思フナリ

一幼年又ハ既ニ婚セシ婦ノ貸シタル金ハ効ナ

シト消ユヘキモノトハ思ハズ如何

幼年ノモノ、爲シタル條約ハソノ効ナレ但

シ幼者ノ爲メニナルイハソノ効アリ

車輛ニ付テ之レヲ立テ人柄ニ付テ之レヲ立

ツルハ商事ヲ保護スル爲メカ又ハ一國ノ爲

メ立テタルモノカ

ソノ目的ハ種々アルナリ

タトヘハ銀行會社ナトハソノ會社ノ爲メニ

立テタルモノナリ

活版書翰等ハ政府ノ爲メナリ

官員等ハ政府ノ爲メニ費ヤス時間ヲ已レカ  
爲メニ費ス等ノ宜シカラサルイアルユヘ政  
府ノ爲メニ立テタルナリ

裁判官ノ一ハ千七百九十一年裁判所改革ノ  
時ニ出来タル法ナリ

他ノ官員ノ一ハ法律ニハ記載ナシ

幼者等ハソノ人ノ爲メニ立テタルモノナリ  
幼者ノ商事ヲ爲ス丁能ハズト云フハ法律ニ  
定メタル定限アリト虽モソノ人ニヨリテソ  
ノ禁スル定限内ニアリト虽モ才能被群ノモ

ノアリ又ハ家業ノモノソノ父ノ老ヒタルト  
キ等ハソノ禁ノ定限ヲ緩メサルヲ得サルナ  
リ如何シテ可ナルヤ

後見ヲ免カレタル幼者

幼者ノ商事ヲナスニハ第一「エマンスパシヨ」ヲ  
受ク可シ

ソノ時ハ財本ノ支配人トナル

ソノ財本金并ニ財本トナル可キ物件ヲ動カ  
ス丁能ハス

只ソノ利金ヲ動カス丁ヲ得ルノミ

「<sup>エ</sup>マンスパシヨレ」 後見ヲ免カレシ<sup>幼者</sup> 不動産ヲ賣買スル<sup>一</sup>ヲ得ズ不  
動産ヲ貸借スル<sup>一</sup>ヲ得ル自カラ運動スル<sup>一</sup>  
ヲ得ルモノハ只々ソノ利金ノミ  
第二ニハ十八年以上タルヘシ  
民法ニ於テハ十五年ニ至レハ「<sup>エ</sup>マンスパシヨレ」  
ヲ受クル<sup>一</sup>ヲ得ルト虽モ商法ニ於テハ十八  
年ニ至ラザレハ之レヲ受クル<sup>一</sup>ヲ得ス  
第三ニハ  
我カ父ヨリ許諾ヲ受ケサレハ商業ヲナス<sup>一</sup>  
ヲ得ス

。踪々

後見ヲ免カレタルト十八年ニ至レギト虽モ  
ソノ父ノ許諾ナケレハ能ハス親族中子ヲ知  
ルハ父ニ如クハナシ  
父ノ失跡死去又ハ重病等ニテ今覺ナキトキ  
ハ母ノ許諾  
父モ母モナキトキハ親族會議ノ上ソノ許諾  
親族ハ父母ヨリ疎ナルユヘニソノ會議ノ趣  
ヲ裁判所へ出シソノ允許ヲ得可レ  
ソノ裁判所ハ民法裁判所ナリ商法裁判所ニ  
ハアラス

第三ニハ許諾ヲ布告スヘシ  
許諾ノ証書ハ公正ノ証書ニテモ私ノ証書ニ  
テモ若シカラス之レヲ商法裁判所ヘ貼出ス  
可シ

義務  
コンジション

- 合セテ四ツノ義務アリ
- 一「エマンスパシヨンジヲ受ク
  - 二「十八年ニ至リタル上
  - 三「許諾ヲ受ク
  - 四「裁判所ヘ貼付ス

之レヲ爲セハ商人ナリ  
タトヒ商人トナラストモ商人ノ爲ス所口ノ  
イヲ爲スニハ以上ノ四ケノ義務ヲ爲スヘシ  
爲替手形等ノ商事ノ一ツヲ爲スニモ右ノ四  
義務ヲ爲サルベカラズ

ブスケー紫スルニ教師  
ノ名

此ノ如ク法ヲ立テ、アルト虽モ第三條ニ記  
スル等ノ場合ニ於テ商事爲替手形ヲ爲スノ  
一ツヲ爲スモノニ於テ以上ノ如キ裁判所ヘ

商法會議筆記

七年九月廿七日

貼付スルハ理ノ當ラサルヲト思フナリ  
法ナレバ目今ニ  
至リ行フナリ  
 真ニ商業ヲナスモノハ天下ニ布告スルモ尤  
 ナリト虽モ以上ノ如キハ當ラスト思フナリ  
古但キ

過日ハ幼年ノモノ商業ヲ十スニ付許諾ヲ受  
ケルイヲ説キタリ今日ハ幼年ノモノ許諾ヨ  
リ生スル權ヲ説カントス  
一体ハ幼年ノモノ許諾ヲ受ケレハ丁年ノモ  
ノト同様ニナル  
尤モ平生ノイハ否ラス只々商事ニ關スルイ  
ノミニ  
幼年ノモノ許諾ヲ受ケレハ丁年ノモノ同様  
ナリトハ云ヘ凡色々ニ

一般總テノ商業ノ許諾ナレハ何事ヲモナス  
ト虽モソノ許諾ハ醬油ヤトカ何トカト限リ  
タル許諾ナレハ他ノ商業ニ付テハヤハリ幼  
年ノモノト同年ノモノト同様ニハナラス  
此種類ト定マリタル商事ノ許諾ナレハソノ  
商事ノコトナスヘシト虽モ民法中ニ於テ下  
年ノモノ、ナスコトヲ為スヲ得ル

タトヘハソノ商事ノタメニハ不動産ヲ賃入  
レトナスコトヲ得ルナリ但シ賣ルコトハナラス  
ソノ不動産ヲ賣却スルコトニ付テハ民法ノ手

順ヲ為サ、ルヲ得ス此ノ如キ人ハ一人ニシ  
テ二人ナルカ如ク商事ニ付テハ能力アリ民  
事ニ付テハ能力ナキ也

幼年ノモノ、ナスコトニ於テ之レハ商事之レ  
ハ民事ト直チニ分カラサルコトアリ  
タトヘハ金ヲ借ルニソノ商事ニ付テノ文面  
アルトキハ即チ高更ト認ムルナリ  
然ルニ只々金ヲ借取リタリトノ文面ノミナ  
ルトキハ民更ノタメカ又ハ高更ノタメカ不

分明也

右ノ場合ニ於テハソノ人々幼年ナリ高更ヲ  
ナスハ非常ノ事ナリ依テ民法ヲ以テ処置ス  
ル方ト云フ説アリ

又一説ニハ既ニ高人ナリ高法ヲ以テ処置ス  
ヘシト云フ説アリ此ニ説何レニ從ハレヤ

幼年ノ人ノ手取等ニ於テハ民事タルノ説多  
シ

タリルド、カワサシヨビニテハ高更ナリト定ム

ソノ由ハ高法六百三十八条ニアリ

此六百三十八条ハ幼年ノタメニ云フモノ

ハアラスト虫モ高人ノ姓名ヲ手署シタル手  
取ニ云々ハ此等ノ手取ヲ高業ノタメ記シタ  
ルモノトストアルヲ以テ之レヲ高更ト定ム  
ルニ

幼年ノモノへ許諾ヲ与フルハソノ人々才力  
アルニ付テノ事ナリ万一ソノ人凡癡又ハソ  
ノ他ノ事ニテ才力消亡レタルトキハソノ許  
諾ヲ引上タルハ法律ニ昏イテハ無之ト虫  
モ之ヲ引上タルノ道理アリソノ引上タルト  
ハ即チ許諾ヲ与フルトキト同一ノ手取ヲナ



〇夕ノ加ニ

スヘニ  
之レ裁判所ノ成規ニ  
リノ手数ヲナサレハ諸人ノ誤認ヲ引起レ迷  
惑ヲ生ス  
第六條ニ不動産ヲ借入質トナスコトヲ得ルト  
各イテアリ之レハ第三條ノコトハ違フナリ  
第三條ニ各イテアルモノハ全ク高入トハナ  
ラス偶々ニ高事ヲナスコトヲ云ヒタルモノナ  
リ故ニ第六條ノコトハ此ノ條ノカニ入ルコト  
能ハス

尤モ第三條タリトモソノ一事ニ付イテハ許  
諾アリトモ高入トナルニアラサルコトハ不  
動産ヲ質入レトナス權マテハ入ラス  
以上ハ幼年ノモノヲ云フ  
以下ハ既ニ婚セレ婦ノコトヲ悦カレ  
幼年ノモノハ自然ニ不能ナルモノナリ婚セ  
レ婦ハ不能ニハアラス夫ヲ敬レソノ夫ノ權  
ニカ、ワラサルタメニ法律ヲ以テ不能トナ  
シタルナリ故ニ夫ニテ高入ヲナスコトヲ許諾  
セシキハ之レヲナスコトヲ得ヘシ

○  
両方

幼年ノ婦ノ既ニ婚セシモノ高更ヲナストキ  
ハ幼年ノ婦ノトト既ニ婚セシ婦ノトト西方  
ノ義務ヲナサ、ルヘカラス  
幼年ノ婦ノ義務

エマニスパレヨシラ受ク十八歳ニ至リ

タル上許諾ヲ受ク 裁判所へ貼付ス

婚セシ婦ノ義務

以上四ヶノ義務ノ上更ニ

夫ノ許諾

此両方ノ義務ヲ尽サ、ルヲ得ス

先キニ一般商人トナルト高更ヲナストニ夕

トニ説キタリ

婦ニ付テモ此ノ如クニツニ分ケテ説カサル

ヲ得ス

幼年ノモノ、一事ノ高更ヲナスニ付テハ高

人トナルト同レ義務ヲ尽ス、ハ第三條ニ説

ク所口ノ如シ

婦ノ一更ノ高更ヲナスニハ民法ニ従フテ之

レヲ為ス

民法二百十七條ニ謂フ如ク夫ノ許諾ナクシ

シテハ賣ルヲモ買フヲモ遺ルヲモ取ルヲモ  
出来ス但シ夫ノ条約中ニ入りタルトキハ格  
別ナリ即チ此条ヲ以テ之レヲナス  
之レ幼年ノモノ、ナス所ト異ニ  
之レハ婦ノ一妻ノ高ヲナスヲナリ高婦トナ  
ルニハ第百四條ニ留フ所ト從フ  
民法第百十七條ノ許諾ハ各付ヲ以テス  
此第百四條ハ各付ニテモ口上ニテモ又ハ黙許  
ニテモ若シカラス之レハ元來不能力ノモノ  
ニアラザルニハ夫ノ許諾サヘアレハナス

ヲ得ルニ

此所トニ議論アリ

婦ノ高妻ヲナスヲ夫ニテ黙許ヲナスハ親  
睦ノ夫婦ノトニ

万一及目ノ夫婦ニテ別居ヲナス等ニ於テハ  
夫ニテ決シテ各付ケルヲハアルマレ  
キ

民法ニハ夫ノ許諾ヲ与ヘサルトキハ裁判所  
ノ許可ヲ以テナスヲ各付テアリ高妻ニテ  
モ此ノ如ク裁判所ノ許諾ニテヨロシキヤ如

何ノ論アリ

右ニ付テハ種々ノ説アリ

セシ洲ノ裁判所ト巴里ノ「クールト」トタツヘル

ノ説トハ違フコト

クールトダツペルノ説ニハ民法二百十九條

ニハ夫ノ許可ヲササ、ルトキハ裁判所ニテ

許可ヲナストアルニ付イテ説ヲ立ツタトハ

ハ一事ヲナスニサヘ裁判所ヨリ許可ヲナス

ノ権アリ高事ハ一事ヲ合セタルモノナリ故

ニ之レヲ許可スルノ権アリト云フ

又一説ニハ婦ノ高事ヲナスモノハ才能アリ

モノナリソノ人高事ヲササ、レハ活計立チ

難キ等ノ節夫ノ氣ニ入ラストテ承諾ヲササ

、ルトキハ裁判所ニテ之レヲ許可セスト云

フハ不都合ナリ故ニ之レヲ承諾シテ可ナリ

ト云フ

セシ洲ノ府縣裁判所ニテハ

夫ノ承諾セサルモノハ裁判所ヨリ之レヲ換

エルト能ハスト云フ

法律家ノ中ニハ此説多シ

フスケイ

我レモ此説可ナリト思フニ

第ニニハ

民法ノ第ニ百十八條ニ夫ノ許可ヲナサ、ル  
トキハ裁判所ニテ許可スルヲ説キタリト  
虽モ民法ノ許可ト昏キタルモノハ商法ノ許  
諾ト昏キタル語トハ違フニ

民法ノ語ハ

許可フ、トリ、サ、リ、シ、ヨ、レ

許諾サ、レ、ト、マ、シ、

許可ハソノ事スヘキノ權アレ之レヲ押ヘタ  
ルモノヲ許スノ意味也

許諾ハ兼知セリト云フ也許可ハ裁判所ニ  
テ之レヲ為スヘレト虽モ夫ノ兼知セサル  
ヲ裁判所ニテ人ノ代リニ兼知スルヲ出來  
サル也

右ハ文字上ノ議論也

第ニニハ

民法ノ二百二十二條ニ云フ所口ハ夫婦財産  
相通ノトキハ婦ノナス一ハ惣テ其ノ財産

○共  
夫  
飲

○高飲

ニ関スルトアリ  
婦ノ一更一事ヲナスハ高カノ知レタルモノ  
ナレト惣テノ高業ニ於テハ何更ヲナスヤ  
知ルヘカラス依テソノ夫ノ財産ニ関スルハ  
大切ナルト之夫ノ損益ノミナラス夫ノ名譽  
ニ関スルトモアリ万一貸坐敷ニテモ始メテ  
レテハ夫ノ名譽ニモ関スルナリ尤マテノ  
ヲ夫ノ許サレルトリ裁判所ヨリ許スノ理ナ  
シ

第百二十九条

民法二百二十九条ニ一事ヲナスニ裁判所ヨ  
リ許可ヲ出スヲ答テアリ  
此一事ニ付テハ其事柄ヲ裁判所ニテ吟味シ  
テソノ子ノ学業ノ資金等ニテ夫ノ出サ、ル  
ハ無理ト思フトキノト  
右ニ反レ一般ノ高業ニ付テハ如何ナルト  
ナスヤ如何ナル人ト接スルヤ依テ起ル迷惑  
ヲ夫ニ掛ルトアルヤモハカルヘカラス然ル  
ヲ裁判所ヨリ許諾ヲ与フルノ理ナシト云  
夫ニテ好通ヲナシタルニ付キ婦ニテ別居ヲ

ナレ居ルモノアリソノ財産ハ不共通ナリソ  
ノ時婦ニテ高事ヲサシトスルト虫氏夫ニ  
テハ之レヲ許諾セスソノ時ニテモ裁判ニ  
テ之レニ許諾ヲ与ヘサルヘキヤ尤モナリ此  
ノ如キ論ハ沃山アルニヨワテ巴里ノクル  
トカワサレヨシニテ前説ヲ立テタルニ  
此ノ如キ夫ハ悪心ナルモノニ下ソノ婦ヲ保  
護スヘシト云フ説ナリ然ルト虫モ一般ニ之  
レヲ許スト云フニアラス  
婦ノ高事ヲ許レテ夫ノ困ルモアリ夫ニテ

〇〇、奸淫ナラシ

許サスレテ婦ノ困ルトモアリ  
前条ノ如キハ婦ノ困ル場合ナリ婦ニテ奸<sup>〇</sup>淫<sup>〇</sup>  
ニテモ為サレテハ名誉ニ関ハリテ夫ノ困ル  
トモ

〇義ナラシカ箱  
打スヘン

實地ニ於テハ双方ノ説甲乙ナレ法律上ニ付  
テ論スルトキハ文〇ヲ於テ許サ、ル方ノ説  
重ク且ツ強レ  
此説ニ於テハ銘<sup>〇</sup>ノ説ニテ可然<sup>〇</sup>ハニテハ後  
ノ説多クナラシト思フコ  
婦ニテ夫ノ高事ヲ助ケテ店ニテ物ヲ賣リ且

使リテ人尋ノモノアリツノモノ、ナスルハ  
惣テ夫ニ関スルナリ之レヲ高婦ト混スヘカ  
ラス

以上ハ許諾ノ与ヘ方ヲ説キタリ以下ハ許諾  
ヲ与フレハ何レノ義務ヲ生スルヲ説カント  
ス

五条幼年ノモノハ高人トナリタルト同シ  
ニテ婦ノ高人トナリタルモノハ高事ニ関ス  
ルトハ何事ヲモナスルヲ得ルニ

民法二百二十条ト高法第五条ト同レ文ナリ

右款

併シ高法ノ第五条ニ謂フ所口ノ手次キヲ以  
テ商人トナリタルトキハ民法第二百七条  
ノ一事コトニ許諾ヲ受ルニ及ハストス  
七条前ニ云フ幼年ノ商人ハ不動産ヲ質入  
スルトハ出来ルナレト賣ルトハ出来ス婦ノ  
商人ハ之ヲ賣ルト得ル  
右ハ不能力ノモノト異ナル所口也  
不動産ヲ賣却スルト得ルト云フトモ亦賣  
却スルト得ルモノ也  
嫁資分括ノ法ニ從ヒ条約ヲ定メタルモノハ



之レヲ賣ルヲ得サル也

此不動産ハ夫モ賣ルヲ得ス法律ニ於テハ  
記載ナシト雖モソノ他ニ賣ルヲ得サルモ  
ノアリ嫁時ニ他人ヨリ贈リタル不動産之レ  
也

高婦ハ夫ノ許諾ヲ受ケタルトキハ何事ヲモ  
ナシ得ル又財産ヲ自由ニスルヲ得ル  
然レトモ商事ニ関シタルニテモ訴訟ヲナ  
スヲ得ス原告人トモ被告人トモナルヲ得  
得ス

民法二百十五條ニ夫ノ許諾ナクシテハ裁判  
所へ訴訟スルヲ得サルヲ記シタリ

民法二百十八條ニ夫ノ許諾セサルトキハ裁  
判所ヨリ之レヲ許可ストアルアリ

前キニ謂フ所ノ商人トナル許諾ハ裁判所  
ヨリ之レヲ許スヲ得スト雖モ民法二百十  
八條ノ一ハ一事ニ付テノ一ナルユヘ裁判所  
ヨリ許可スルモノナリ混スヘカラス

既ニ夫ニテ婦ノ商事ヲ許諾スル上ハ惣テ夫  
ニ関スル也

財産ハ 夫ノ私有金 夫婦共通ノ金 婦ノ  
私有金 此ノ三ツノ財産アリ

商事ヲナスニハ此三ツノ財産ニ関スルナリ  
之レハ商事ヲ廣クスルタメナリ 衆人ニテハ  
右ノ如ク金ノ多クアルユヘ慥カナルト思  
ヒテ商事ニ取組ム也

財産不共通夫婦ハ格別ナリ 婦ノナストニ付  
テハ夫ノ財産ニ関セス  
幼年ノモノニ与ヘタル許諾ヲ引上ル如ク 婦  
ニ与ヘタル許諾ヲ夫ニテ引上ルヲ得ル

ツノ手續ハ法律ニ昏イテ無之ト雖モツノ之  
レヲ引上ケタルトハ遍ク世上へ流布スルタ  
メ新聞紙へ出シ又ハ裁判所へ貼出ス等ノト  
ヲナスヘキ也

商法會議筆記

七年十月二日

第四

七年十月二日

今日ハ商業簿冊ノコトヲ説カントス  
商業簿冊ハ法律上ヨリ所持スルノミニアラ  
ス自分ノ心覺ノ扣ヘトナス為メニ所持スル  
ナリ

法律上ヨリ簿冊ヲ所持セシムルハツノ目的  
三ツアリ第一ノ目的ハ過日説キタル如ク人  
カラシテ信用セシムル為メナリ

第二ノ目的ハ取扱ノ事柄ノ次第ヲ見ル為メ  
ナリ日ヲ追ツテ書キ入レル等ナリ

第三ノ目的ハ事柄ノ証據トナル為メナリ事  
アレハ何時ニテモ之レヲ持出シテ証據トナ  
ス

法律上ヨリ商人ハ商業簿冊ヲ所持セサルモ  
ノヲ罰スル「ハ商法コード」五百八十六條  
ト五百九十條ニ書イテアリ

五百八十六條ニ云フ所口ノ商人ニテ簿冊ヲ  
所持セサレハ身代限トナル

此身代限リニニツアリ

第一ハ通常ノ分産ナリ

第二ハ詐偽ノ身代限リ即チ倒産<sup>バシクル</sup>ナリ

五百八十六條ノ分ハ簿冊ヲ所持セサルモノ  
ナリ

五百九十一條ノ分ハ簿冊アレレ之レヲ切斷  
スル等誘ヲナシタルモノナリ

此ニツハ刑法ノ罰ナリ

其他ニ一ツノ罰ナリ

商法コードノ第十三條ニ云フ所口之レナリ  
訴訟一方ノモノ、簿冊ニ記載スル事、安シ  
カラサルモノハ負ケトナルナリ

之レハ罰ノツノ身上ニ関スルモノナリ

第二ハ商法第十七條ニアリ

タトヘハ訴訟双方ノ内一方ニテハ簿冊ヲ詳記セス

ツノ時一方ノ詳記スルモノヨリ君ノ簿冊ニ

ハ此等ハ書記セサルヲ得スト云フトモ一方

ノモノツノ簿冊ヲ出タサ、ルハ裁判官ニテ

ハツノ簿冊ニ詳記セサルモノヲシテ誓ヒ

ヲナサシム

既に誓ヒヲナセハ其事ハ誓ヒヲ立ラタル通

リノトナシテ裁判ス

誓ヒトハ<sup>セールシ</sup>此事ハ之レニ相違ナシト之ヒテ誓

フナリ

簿冊ヲ所持セサル可カラサルトハ大ナル商

モ小ナル商モ總テ同シトナリ

簿冊ニハ種類アリ

第一ニ<sup>リブエシ</sup>日用簿冊ナリ

右ハ第八條ニ云フ如ク出金入金ツノ外日々

記入ス

尤モ日用民法ノトヲモ記入スツノ日用民法

ノ下ハ一月ヲ惣括シテ各入レルモ苦シカ  
ラス分産等ノ時活計入費ノ大数ヲ見ル為メ  
ナレハナリ一日ノ菜料ニ日ノ米代ナト明細  
高法ノ分ハ日々順序ヲ追フテ日々毎ニ記入  
セサルヘカラス

日用活計ノ費用高ヲ記入スルハ第一ニ分産  
ノトキ商事ニ関セサル入費ニテ有金ノ高ヲ  
見ル為メナリ

第二ニソノ人ノ品行ヲ見ル為メナリソノ身  
代ニ付キ何程ノ活計ニ費用スルヤ侯勤カス

ハ浪費カラ見ルニ足ルナリ

簿冊ヲ詳細ニ記載スルトキハ

第一ニ事ノ起リタルトキノ充分ナル証據ト  
ナルナリ

若シソノ簿冊ノ記入粗漏ナルトキハ人ノ為  
メニハ証據トナリ我カ為メニハ害トナルナ  
リ

第二ニハ書翰ノ簿冊ヲ作ラサル可ラス他人  
ヨリ送り来ル書翰ハ簿冊ニ日ヲ追テ寫シツ  
レノミナラスソノ各翰ノ本書ヲ保存シ置ク

ナリ  
目録帳

第三ニハ商人ハ自己ノ動産不動産並ニ出入  
金ノ惣會計ヲ一ケ年ニ二度位ナスナリ  
ソノ目録ヲ記入スル簿冊アリ

第九條ノ九書ニ私ノ書キ付テ以テ會計目録  
ヲ作ルトアリ

元來私シノ書キ付ケト公ケノ書キ付ケトニ  
夕様アリ

私シノ唇キ付ケハ自己ノミニテ之レヲ書キ

公ケノ書キ付ケハ公証人ノ面前ニテ之レヲ  
書クモノナリ

世続婚姻等ノ民法ニ関スル惣會計ニ付テハ  
公証人ノ面前ニテハ公ケノ書キ付ケテ以テ

スト雖モ商事ハ人ニ廣ク知ラシムルニ及ハ  
ズ私シノ書キ付ケニテ可ナリ

此私シノ書キ付ケハ公ケノ書キ付ケト同シ  
権ヲ有スルヤ

公ケノ書キ付ケト同様ノ権ハナシ他人ヨリ  
ソノ偽作ナルヲ訴フルトキハ消滅スルナ



リ簿冊記入ノ方法ニツアリ内方ノ法アリ外  
方ノ法アリ

以上二箇ノ簿冊ハ惣テ日ヲ追ツテ記入スル  
モノナリ

事柄ヲ陸續シテ空日ナク之レヲ記入ス可シ  
欄外ニ記スルヲ得ス

萬一誤記アルトキハ之レヲ順次ノ末ニ記入  
ス

タトヘハ去月ノ十日ニ誤リタルモノ本月  
日ニ見出シタルトキハ即チ其見出シタルニ

日ノ所々へ記入シ置クナリ

但シ見出シニ第何日ヲ見ルヘシト書ク

第九條中々々ノ目錄トハ何ヲ云フヤ

目錄ハ勘定書キ付ケノフナリ

ハシラクケケ  
貸借

元書直譯

動産不動産且ツ貸金借金ノ惣算用毎年自己

ノ書ニテ之レヲ作りツテ目錄ヲ別段作り

タル帳面ニ寫シ留ムヘシ

日ヲ追ツテ記入スル割白ナク書記スル等ハ

詐偽ヲ防ク内法アリ  
又ソノ詐偽ヲ防ク外法アリ  
此外法ニ四ツアリ

第一ニ

一葉毎ニ一二三ノ符号ヲ付クル

此符号ヲ付ケルノ目的ハ簿冊ノ紙ヲ抜き差  
シナラサル為メニスルナリ

第二ニ

一葉毎ニ裁判所ニ関スル官員ノ姓  
ヲ記入ス

其記入ノ法方ノ官員ノ姓ノ頭ノ一字ヲ記入  
ス

右ノ目的ハタトヒ一二三ノ符号アリトモソ  
ノ同シ符号ノ紙ヲ以テ抜き差シスルコトヲ得  
ル仍テ姓ノ頭字ヲ記入スルトキハソノ詐偽  
ヲナスコト能ハス

第三

以上ノ午数ヲナシタル上ソノ簿冊ノ前カ後  
カヘ裁判関係ノ官員之レヲ検査セラル上何  
某ニ渡スト記ス

第四二

第十條ニモ同シ様ノイアリ一冊中ニ枚ナ  
リ二十枚ナリ一ケ年中ノ附ケ込ミノ終リニ  
之レヲ為スイナリ

之レハ第十一條ノイトハ違フナリ十一條ハ  
新簿冊ヲ渡ストキノイナリ

毎年ノ終リニ検査ヲ為スハ又目的アリ今  
年ノ簿冊ト昨年ノ簿冊ト誤ラサル為メニ之  
レヲ為スナリ

一冊コトニ檢印ヲナスモノハ第十一條ニ云

ア通りナリ

高法裁判所ナキ地アリ又アリテモ其地ニ  
困ルアリ仍テ右夫ノモノニテ之レヲナス  
通常ノ法式トハ裁判役ハ裁判所ノ法式アリ  
邑長ハ邑長ノ法式アリ夫ノ法式アルナリ  
商人ノ義務ニ於テ以テ以上ノ簿冊ヲ十年間  
存シ置ク可シ

十年以外タリトモ証トハナルナリ  
然レ共十年以外ハ存セサルヲ得サル法則  
ニハアラス

今云フ三箇ノ簿冊ハ貯持セサルヲ得サハナ  
リ  
其他大簿冊ナルモノアリ

之レハ商人銘々貯持スルナリ

之レハ何某々ト人分ケヲ以テ製シナス

タトハハツノ人分ケノ内右側ハ出方左側ハ

入方ト記ス一目瞭然タル簿冊ナリ 日本ノ大福帳ノ如シ

又金函簿冊アリ商人之レヲ持ツ我カ金函ニ

入レモノ又ハ金函ヨリ出ツルモノ、シ

ス

之レヲ以テ金函中現在何圓アルヲ知ル為メ  
ナリ

此ノ如ク簿冊ハ澤山アリト云氏之レ等ニテ

ハ出入貸借等ノ確タル一ハ不分明ナリ仍テ

大簿冊ノ終リニ至リテ自己ノ部類ヲ設ケ置

ク

之レハ自己ノ貸借ヲ知ル為メナリ又自己ノ

関係スル品物ヲ一箇ノ人ト見做シテ設ケタ

ルモノナリ

高亭ノ品類ヲ五ツニ分カツ

第一商品

第二金函

第三受取手形

第

四拂手形

第五損益

右一品々々ハ高事ニ関スル入トナシテ見ルナリ

一例ヲ舉ケン

通常ノ年次キナラハ一助ナルモノヘ酒一石

ヲ賣リタリソノ時ハ大簿冊中一助ノ部ノ出

ト云フ所ロニ酒一石ト記入ス

商品トアル所ロノ出ト云フ所ロヘ又酒一石

ト記入ス

商品又ハ金函等ハ一人ノ人ナリソノ中出ト

入ルトニツニ分カルナリソノ入りノ所ロヨ

酒一石ヲ買ヒタルキハソノ金函ヨリ代料ヲ

出スユヘ金函ヨリ借リタリトナス

之レニ及シ賣リタルトキハ金函ヘ貸シタリ

トナスナリ

右ハ大簿冊ノ末ノ方ニ設クルナリ之レヲ記

簿法中ノ役記ノ法ト云フナリ

之レ決ミテ間違ヒノナキ記簿法ナリ

一助ニ酒一名ニ賣ンハ一助ノ部ノ入りニ記

入ス又出へ金何程ト記入ス又金函ノ入り酒  
一石ト何圓ト記入ス

右ノ如ク彼是相照應スルユへ間違ナシ  
簿冊ヲ記スル法ハソノ誓古アリ

委シカラスト虫モ大畧ハ今説ク所口ノ如ク  
ナリ

一事済メハ必ラス損ト益トノ所口ニ至リテ  
之レヲ計算スソノ時ニ至リ金ノ贏ルハ之レ

益ナリ

損ト益トヲニツニ分ケテアルナリ益ノ方多

ケレハ我レニ入り来ル金アリ損ノ方多ケレ

ハ我レヨリ出ツル金アルナリ

一ト品ヲ一人ノ人ト見做シ入りノ澤山アル

人ト自己ヨリ金ヲ貸スモノナリ出テノ澤山

アルモノハ自己へ金ヲ借リルモノナリ

大ナル商入ハ何程ノ取り引キアルヤハ分カ

ラサレ氏此五ツヲ以テ分カツトキハ一目瞭

然タルナリ

商法會議筆記

七年十月七日

七年十月七日

先會マテハ薄冊ノ一ヲ説キタリ今日ハ右簿  
冊ニ記スルヨリシテ証據トナル一ヲ説カン  
トス

証據ヲ立ツル法方ニ於テ満足ナル仕方トテ  
ハ無之

併シ民法ニハ証據ヲ立ツル一ハアリ元來商  
法ニハ満足ナル法方ナシト雖モ民法ヲ通シ  
用ユ可キナリソノ千三百十五條ニ付テ論シ  
タル一モアリ



此處ニテ民法ヲ説クヲ欲セス  
先ツ商法ニ付テ説カントス  
訴訟ヲ為スニハ必ラス原被アリ

第一

先ツ商人ノ原告人トナル所ヲ説カントス  
民法ニ於テハ原被トモ訴ヲナスノ規則アリ  
テ自己ニテ書キ付ケテ作り証ヲ立ツルハ能  
ハス

商法ニ於テハ全ク自己ニテ作りタル書キ付  
ケテ以テ証ヲ立ツルハアリ原告人商人ニシ

テ被告人商人ニアラサルトキノ証ノ立テ方  
ハ

民法千三百廿九條ニ云フ所ノ商人ノ簿冊  
ハ誓ノトニ付キ云々ヲ除クノ外商人ニアラ  
サル者ニ對シテ云々証ト為ス可カラスト記  
載有之全ク民事ノ訴訟人ニ對シテハ証トハ  
ナラサルモノナレトモ訴訟ヲナス以前ニ商人  
ニテ自カラ證據ナリト誓ヲ立ツルトヲ得ル  
ナリ

右ハ元來民法ノ原則ニテハ證據ニ立テ難キ

モノナレ氏商人ノ利益トナル為メニ裁判官  
ノ前ニ於テ誓ヲ立ツルトキハ之レヲ證據ナ  
リトシテ裁判ヲ始ムルナリ  
万一ソノ誓ヲナシタリトモ詐欺ナルトノ露  
顯シタルトキハソノ罰アリ

裁判官ニ於テソノ誓ヲ目的トシテ民法被告  
人ヲ呼出シ吟味シタル上ソノ誓ノ如クナラ  
サルトキハ原告人ハ罰ヲ加ヘラル、ナリ  
刑法第三百六十六條ニ詳カナリ  
之レヲ取調ヘタル裁判官ニハ罰ナシ

民法千三百廿九條ヲ以テ民法被告人ニ對ス  
ル云々ハタトヘハ家ノ貸借等ノトニハ用ニ  
立タス

必ラス商物ヲ平人ニ引渡シタルトキノトナ  
リ

## 第二ニ

商法第十二條ニ云フ如ク商人ト商人トノ間  
ニ於テハ簿冊ノミヲ以テ證據トナスナリ  
商人ノ間双方ニ證據トナルニ於テ三ツノト  
アリ

第一ニハ規則ニ協ハサレハ證トハナラヌ  
第二ニハ商人ト商人トノ間ニアラサレハ證  
トハナラヌ

第三ニハ民法ノ一此中ニ入レハ證トハナラ  
ス

商法第十三條ニモ証トナル一ヲ説キテアル  
ナリ見ルヘシ

第一ノ一ハ商人ニテ平人ニ對シ訴訟ヲナス  
キノ一ナリ

第二ノ一ハ商人ヨリ商人ニ對シ訴訟ヲナス

キノ一ナリ

又商人ノ被告人トナリタルトキノ一ナリ原  
告人ハ商ニテモ平人ニテモ異リタル一ナリ  
民法千三百三十條ニ商買ノ簿冊ニ記スル所  
ロハ其商買ノ損トナルヘキノ証トナス一ラ  
得ヘシ云々トアリ

商人ノ被告人トナリタル場合ニ於テ品物ノ  
注文ヲ受ケテ工職ヘアツラヘ居ルニソノ注  
文主ヨリ日限ヲ過キタルニ付キ訴ヘタルト  
キ商人ノ簿冊ニソノ日限ニ出来シテ注文通

ニ引渡シタル旨ヲ記入シテアルトキハソノ  
簿冊ノ證據ヲ以テ申立却テソノ訴訟ヲ及ヘ  
ス<sup>尤モ規則ニ協フタル簿冊ニ</sup>トアリ  
商法第十七條ニモアル通り民法ニ於テ証ヲ  
立ツルト全ク反對セシトアリ  
民法ニ於テハ相手方ニ証アリ之レヲ差出サ  
セ度ト云フトハ出来サルナリ併シ商法ニテ  
ハ一方相手方ノ簿冊ヲ以テ証トナス可キト  
ヲ申立テハソノ簿冊ヲ差出サシムルトヲ得  
ルナリ之レハ商人ニ於テハ簿冊ハアルヘキ

モノニシテ不正ノトヲ記スルモノニアラス  
何ノ所口ヘモ持テ出ス<sup>ト</sup>ヲ得ルモノナレハナ  
リ  
商法第十五條ニ云フ如ク民法ニ反シタルト  
今一ツアリ  
民法ニ於テハ裁判官ハソノ訴出スル文ケノ  
外別ニ發摘スル<sup>ト</sup>ヲ得ス  
商法ニ於テハ裁判官ハソノ職務ヲ以テソノ  
簿冊ヲ差出サシムル<sup>ト</sup>ヲ得ル然ルニハ又  
必ラスソノ訴出セシ外ノ<sup>ト</sup>マテモ出ツル<sup>ト</sup>

アルヘシ

簿冊ノ性質ニ付テニツバ<sub>レ</sub>アリ

第一規則ニ協<sub>フ</sub>タル簿冊ニ付テハ商人ノ為

メニ利益トナル<sub>レ</sub>アリ又商人ノ損失トナル

コアリ

第二不規則ニ備ヘタル簿冊ニ付テハ商人自

己ノ為メニ損失アルノミナラス他人ノ為メニ

利益トナルヘシ

此レマテハ商人ノ簿冊ノ証トナル<sub>レ</sub>ヲ説キ

タリ以下ハソノ証據ヲ立ツル法方ヲ説カン

トス

第一ニハ簿冊ヲ裁判官ニ示ス<sub>ル</sub>コト

簿冊ヲ人ニ見セル<sub>コト</sub>

第二ニハ簿冊ヲ渡シテ調ヲ受ケル<sub>コト</sub>

簿冊ヲ人ニ渡シテ見セル<sub>コト</sub>

第一ノ場合ハ裁判官ニ見セル<sub>コト</sub>ナリ一時子

ニ渡シテ見セル<sub>コト</sub>アリ

ソノ事柄ヲ一應知ラセル<sub>コト</sub>ナリ

裁判官ニ對シ此簿冊ノ第幾葉第幾葉ニケ様

ケ様ノ<sub>レ</sub>ヲ記載シテアル<sub>コト</sub>之<sub>レ</sub>ヲ見ル可シト

云ヒテ之レヲ示スナリ

第二ノ方ハ訴訟アルトキ一切ノ簿冊ヲ尽ク  
出シ身代ノ總体債金何程拂方何程等ヲ委シ  
ク見ルトキハソノ簿冊ヲソノ取調ノ付クマ  
テ之レヲ裁判所へ差出スナリ

此コソニニカツシヨシハ裁判官ヨリ言渡サレ  
タリトモソノ簿冊ノ取調ヲナスモノハ監定  
人等種々ナリ

ソノ取調ヲナス為メニ種々ノ人々身代ヲ知  
ラレテ困ルナリ故ニケ様ノ場合ハコンニ

ニカツシヨシヲ為スコシト裁判官ヨリ言渡ス  
ナリ

此コソニニカツシヨシヲ為ス場合ハ四ツノ場  
合ナリ

即チ商法第十四條ニ云フ

遺物相續財産共通會社ノ分派家資分散ニ限  
ル可シ

尤ヨリ此四ツノ場合ハ争トナルト多シ故ニ  
必ラス此場合ニハ簿冊ヲ出スナリナリタリ  
財産共通ノトニ付テハ必ラス争ノ起ルモク

ナリ

家資分散會社分派ナトハ一ト度ニ分カラハ  
ソノ後ハ皆十各別トナルユヘソノ簿冊ヲ出  
スモ妨ケヤシ

第十六條ノ如ク原被告人ノ住所遠隔ナル地  
於テ簿冊ヲ運フコトノ難渋ナルトキハソノ  
地方管轄ノ裁判所ニテ之レヲ檢シ  
ソノカノ入用ノ分丈ケヲ寫シ取りテ差越ス  
ヘキ旨ヲ云ヒ遣ハスコトアリ  
之レハ「レ」ナシトシヨシヨシ 付クヘキモノ

○ナ  
タ  
フ  
シ  
カ

ナリ

コレミユニカツシヨシヨシニ至ツテハ甚タ手数カ  
ハルナリ

故ニ右ノ場合ニ於テハソノ簿冊ヲ取寄セル  
ナリ

遠隔トハ何程ノ地ヲ指スマソノ原則如何

裁判官ノ見込ミ次第遠隔ニテ簿冊運轉ノ難

法ナルト思量スル所ヲ云フ

簿冊ハ商人ノ日々入用ナルモノユヘ差支ト

ナラサルヲ所要トス故ニ一日程二日程位ハ

取り寄せテ可ナルヘシ

簿冊ノ一ハ説キ尽シタリ以下會社ノ一ヲ説

カントス之レハ肝要ナルヲナリ

第三卷ノ會社ノ事總テ人民ノ集マル一ハ一

人ヨリハ二人二人ヨリハ三人ト集マルハ強

ト云フ成語アリ之レニ依テ會社ヲ取り立

テタルナリ

(集<sup>コレヲフエーラガルス</sup>マンハカラ成ス

會社ヲ組ムニ付テハ只々集マルノミニアラ

ス各自我カ思フ一ヲ吐露シタル上各人ノ旅

諾シタル上ニテ成レルモノナリ

民法商法皆ナ同シ

民法ハ民法ニ云フ所ノ如シ

商法モ根元ハ同シサレモ亦々相違ノ處アリ

尤モ商法中ニ民法ヲ通シ用ユルヲアルユヘ

シバミズ民法ヲ見合ハスルヲアリ

### 會社

民法商法ニカ、ワラス會社ニ付テ四ツノ肝

要ナルヲアリ

第一ニハ條約ノ一



第二ニハ會社ヲ結フニ付テ各々仲間トナル  
ヘキモノ、持寄ノ金高ノヲ

第三ニハ評議ヲ以テ必ラス利益ノ場ル所口  
ヲ目的トスルヲ

第四ニハ仲間ノモノ各々ソノ損失ヲ擔當ス

第一ノ條約ノヲ詳説セン

會社トハ双方條約ヲ取結セタル其日ヨリ會  
社ノ名目ヲ生ス

遺物相續ノ未タ分派セサル間ト此會社トハ

混スヘカラス

遺物相續ニ於テハソノ人既ニ死去シテ相續  
人ノ未タ物件ヲ受ケトラサルノミニテ條約

アルニハアラサルナリ

トシエテトハ之レト異ナルモノナリ決シテ  
混シテ見ル勿レ

商人ノ分散シタルトキハソノ分派ヲ得ヘキ

衆債主アリ未タ之レヲ分カタサル間ハ債主  
共通ノ所有物ト唱フ之レモソレエラトトハ  
混ス可カラハ

タトヘハ人ノ妻ハ不能カノモノトナリ居ル  
ナリ右ノモノニ條約ヲナシタル未ソノ夫ノ  
死去シタルトキハソノ分派ヲ受取ルヲ得  
サルカ如シ

夫ノ生存中ニハ總テ夫ノ指令ヲ受ルヲナリ  
夫ノ死シタルトキハ指令ヲ受ル所ナキエ  
ハ遺物ノ分派ヲ取ルヲ能ハサルニ至ル故ニ  
遺物相續ニ於テハ條約アルモノトハ見做サ  
ズ依テソシエテトハ混ス可カラサルナリ  
夫婦ノ間ニ共通ノ財産ナルモノアリ故ニソ

レヨリ損益ニ関スルヨアリ

ソシエテトハ混シ難シ

ソシエテトハ相互ニ條約ヲナスモノナリ

一人ノ品行ニ関スルヲ付テ不都合ノ出  
来サル為メニ防キテ立テタルモノ、内ニ商  
法ニケ様夫婦ニハケ様ト云フナリ

次ノ會ニハ會社、付テノ義務ヲ説カントス

